

はじめまして。うきは市です。

The heart of
Kyushu
UKIHA

うきは市役所農林振興課 農政係 井上慎也

O VISION
FARMER'S

うきは市の農業について

The heart of
Kyushu
UKIHA

農業の状況

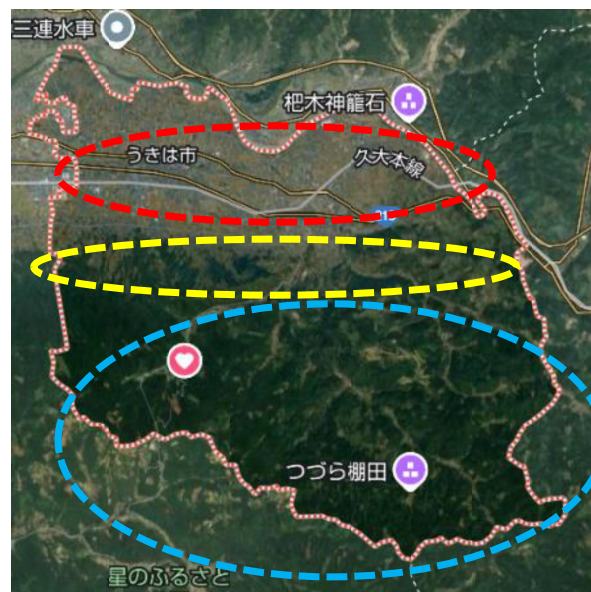
- 平坦部** 米・麦・大豆・施設園芸を中心に栽培が行われている
- 山麓部** 果樹を中心に栽培が行われている
(米栽培もおこなわれているが、麦は作られていない)
- 山間部** 果樹・茶・米を中心に栽培が行われている

農家数の推移

	総農家数	販売農家数	自給的農家数
平成27年	2,090	1,377	713
令和2年	1,619	1,096	523

総農家数は
約22%減

米麦大豆の経営面積は安定している一方で、果樹・花き類・畜産の経営体数は減少



販売を目的とした農畜産物の作付・飼養・経営体数

		かき	ぶどう	もも	日本なし	花き類	花木	小麦	水稲	大豆	茶	豚	肉用牛	乳用牛
2015	面積		133ha	× ha	51ha	51ha	35ha	500ha	759ha	125ha	57ha	4,770頭	× 頭	216頭
	経営体数	456経営体	223経営体	53経営体	81経営体	50経営体	28経営体	221経営体	805経営体	165経営体	23経営体	5経営体	4経営体	4経営体
2020	面積		100ha	14ha	40ha	14ha	31ha	611ha	670ha	185ha	56ha	2,170頭	× 頭	166頭
	経営体数	368経営体	184経営体	40経営体	69経営体	31経営体	21経営体	166経営体	629経営体	114経営体	18経営体	4経営体	1経営体	3経営体

O VISION
FARMER'S

オーガニックビレッジを宣言について

The heart of
Kyushu
UKIHA

なぜ『うきは市』がオーガニックビレッジを宣言したのか

農産物も市場にできれば、〇〇市産、△△市産、うきは市産の農産物が大差がない金額で売買されております。

せっかく丁寧に育てられた農産物を他の産地より高く買ってもらうためには行政としてどのような事ができるのか。うきは市の知名度向上を行うにはどのようにしたらいいのか。を考えたところ、近隣の他産地が取り組んでいないことに取り組むことで、時間がかかるかもしれませんが、付加価値が生まれてくるのではないかとの思いで『オーガニックビレッジ』を宣言させていただきました。

また、生産者の減少→生産量の減少→産地の規模縮小→販売価格の下落→農業者の離農→耕作放棄地の増加→鳥獣害の増加→……など深刻な状況に陥る前に、魅力ある農業をうきは市から発信できると良いと考えております。

3

O VISION
FARMER'S

うきは市の取組について

The heart of
Kyushu
UKIHA慣行栽培
農産物特別栽培
農産物農薬・化学肥料
を使わない農産物有機
農産物

うきは市には、有機JAS取得に適した条件の農地が山間部に多く存在する。
そのため、うきは市としては、環境負荷を低減した農業の普及・推進している。

活用させていただいている事業（過去分含む）

- ①グリーンな栽培体系への転換サポート
事業期間：令和5年度から令和7年度
内 容：果樹を中心とした減農薬栽培の普及

- ③有機転換推進事業
事業期間：令和5年度（対象者がいた場合は随時）
内 容：慣行栽培から有機農業への転換を行う人
に対して20,000円/10a補助

- ②有機農業産地づくり推進緊急対策事業
事業期間：令和4年度から令和6年度
内 容：有機農業の普及・有機農家の育成

- ④推進体制整備
事業期間：令和5年度から令和6年度
内 容：有機JAS認定指導員の育成、有機農業の
専門指導員の育成

4



環境負荷を低減した農業の普及・推進をする取り組み

The heart of
Kyushu
UKIHA

①うきは市職員の農業知識の習得

令和4年度からうきは市の職員を有機農業の基礎知識を習得するために近隣市にある農業学校に入学。(今年度で3年目)

(メリット)

- ・農業の基礎知識からマルシェでの販売までを学習することができる
- ・講師・卒業生など多くの農業者との関係を構築することができる



5



環境負荷を低減した農業の普及・推進をする取り組み

The heart of
Kyushu
UKIHA

②農業者の理解周知活動

【課題】

- ①行政に栽培技術を聞いても知識がない。
- ②講演会などの単発の取り組み。
- ③普及していくにはどうすればいいのか。



【課題解決に向けた取り組み】

- ①有機農業・減農薬農業に詳しい人に聞く。
- ②単発の講演会ではなく連続した講習会を実施。
- ③慣行栽培を行っている農業者に実践してもらう。

【講習会】令和5年度から実施

講師:アグリガーデンスクール & アカデミー
寺崎校長先生

開催日:週1回実施、合計12回

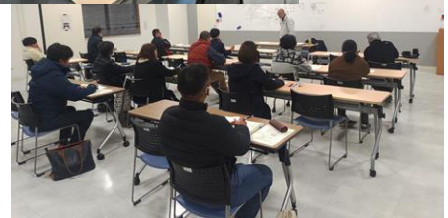
第1クール→7月から9月(13:00~14:30)

第2クール→10月から12月(17:00~18:30)

参加人数:各クールとも20名程度参加

【講習内容の要約】

- ①光合成について
- ②有機物が植物に吸収される流れ
- ③団粒構造について
- ④土壌診断に基づく施肥設計



6



環境負荷を低減した農業の普及・推進をする取り組み

The heart of
Kyushu
UKIHA

③仲間づくり



ロゴ名 O VISION FARMER'S

呼称 オービジョンファーマーズ

由来 organic vision farmers



●コンセプト概略

ここでいうオーガニックとは、『健康的な生活を目指す生産（者）』や『環境配慮した農法を行う農業（者）』を意味する。有機農業者はもちろんのこと、有機農業を目指す農業者等にも活用していただきたい。

●経緯等

市として有機農業の推進及び農産物をPRしていきたい想いから有機農業の推進に向けて2022年度にロゴを制作。

農産物や地域のカラーを基にカラー展開も可。

7



O VISION FARMER'S 取組状況

環境負荷を低減した農業の普及・推進をする取り組み

The heart of
Kyushu
UKIHA

● O VISION FARMERS

『健康的な生活を目指す生産（者）』や『環境配慮した農法を行う農業（者）』等、強い志（意思）をもって農業生産に取り組む者たちを「O VISION FARMERS」と定義。そんな仲間たちが増えていくことを目指します。

Web上でのマッピング

GoogleMAP上に「O VISION FARMERS」が増えていく。仲間が増えていく。そんなまちって素敵じゃないですか？



8

O VISION
FARMER'S

環境負荷を低減した農業の普及・推進をする取り組み

Ministry of
Agriculture, Forestry and
Fisheries
UKIHA

④ 近隣との連携

【近隣JAとの連携した取り組み】

にじ農業共同組合、筑前あさくら農業協同組合、アグリガーデンスクールと協力を行い、堆肥の研究を令和5年度から行っている。



- ① 研究が成功すると、堆肥の製造期間が短縮(180日→100日程度)されることで、管内への供給が可能となり、化学肥料からの一部転換が期待できる。
- ② 今後の供給体制等については、検討していく必要がある。



9

O VISION
FARMER'S

環境負荷を低減した農業の普及・推進をする取り組み

Ministry of
Agriculture, Forestry and
Fisheries
UKIHA

⑤ 農産物生産関係

【水稻栽培(有機栽培)】

にじ農業共同組合、(株)オーレック、久留米普及センターと協力を行い、水稻の有機栽培の実証を行い、今後普及に向けた取組を行って行く予定。(今年度で3作目)



【果樹栽培(有機栽培)】

梨園の耕作放棄地にて、栽培を再開している(今年度で2作目)。うきは市に関わりがある企業の方々や環境に配慮した農業を行いたい方を中心に作業を行っている。



【ワイン用ブドウの栽培(有機栽培)】

フルーツ王国うきはをPR、高齢者の離農抑制、新規就農者の育成確保のため、酒造メーカーと協力し、有機栽培で有機ワインを作る取り組み実証を始める。今年度定植を行い、3年後を目標にワインの製造できるように取組中。(1年目)



10



環境負荷を低減した農業の普及・推進をする取り組み



⑥施策間連携(脱炭素先行地域の取組)

うきは市：農業×観光×生物多様性保全で磨き上げる脱炭素型農村モデルづくり
 ～「フルーツ王国うきは」における果樹産業を中心とした地域経済循環モデルの構築～

【施策間連携モデル】
 農業(フルーツ)×観光×脱炭素
 【生物多様性保全モデル】

環境省

脱炭素先行地域の対象：4エリア(観光・農業振興エリア・群、住まいの提供エリア、働く場づくりエリア、生物多様性の保全エリア)、公共施設群
 主なエネルギー需要家：住宅698戸(既存戸建住宅565戸、新規分譲予定18戸)、建替市営住宅115戸、民間事業者5施設、公共施設36施設
 共同提案者：一般社団法人うきは観光みらいづくり公社、うきは里株式会社、うきは市商工会、ランドブレイン株式会社、西鉄自然電力合同会社、西日本ブランド工業株式会社、中山リサイクル産業株式会社、九州電力株式会社福岡支店、JFEエンジニアリング株式会社、自然電力株式会社

取組の全体像

地域資源である**フルーツ及び観光農園**を軸に、新設する地域エネルギー会社が中心となって**環境配慮型農業と脱炭素化**を進め、「サステナフルーツ(仮称)」として新たな付加価値を創出。「みどりの食料システム戦略交付金(農林水産省)」を活用して進めている**オーガニックビレッジ**(有機農業の推進)との相乗効果を図る。果樹剪定枝や放置竹林を活用したバイオ炭づくり、地域エネルギー会社を通じて生物多様性保全活動への再投資等を通じて、**農業・観光の脱炭素化と生物多様性の保全を一体的に**推進するとともに、自然共生サイトへの認定申請を視野にいた「ネイチャーポジティブコース(仮称)」の設定等により、地域主体で生物多様性の保全と変化を見守る仕組みづくりを構築する。

1. 民生部門電力の脱炭素化に関する主な取組

- ① オンサイトPPAにより戸建住宅に**太陽光発電(258kW)・蓄電池、高効率給湯設備等**を導入し、発電量に応じて遠隔制御を実施
- ② オンサイトPPAにより道の駅うきは、うきはアリーナ等の公共施設に**太陽光発電(3,296kW)・蓄電池**を導入し、レジエンス強化
- ③ 「うきは地域エネルギー商社(仮称)」における**再エネ電源開発と電力取次供給**により電力の地産地消を実現
- ④ 市内企業が優先的に参画する「**うきは地域脱炭素コンソーシアム**」を構築し、低圧需要家の脱炭素化を推進

■いちごや梨等の観光農園の様子

■道の駅うきは(奥：物産館、手前：ギフトコーナー)

3. 取組により期待される主な効果

- ① 有機農業による環境配慮型農業と脱炭素で付加価値を高めた「**サステナフルーツ(仮称)**」をブランド化し、観光振興とともに農家の後継者を育成
- ② 「**うきは地域エネルギー商社(仮称)**」の利益を、生物多様性保全活動への再投資、地元高校生などへの電動アシスト付自転車の購入補助、果樹農家の剪定枝回収事業、省エネ診断事業等の地域課題解決に向けた取組に還元し、**脱炭素と地域経済循環を両立**
- ③ 生物多様性の魅力と脱炭素を学べる周遊コース「**ネイチャーポジティブコース(仮称)**」を設定し、EV等を活用して観光客等に**生物多様性保全と脱炭素**の取組による環境教育を実施

4. 主な取組のスケジュール

2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
	道の駅うきは、うきはアリーナ等の公共施設での再エネ・省エネ導入			
		建替市営住宅のZEH-M化		
			シェアオフィス等のZEB化	
			脱炭素住宅地の分譲	
		農家・家庭への省エネ・再エネの設置補助、空調機器等の遠隔制御		
	経路災害残土造成地の太陽光発電(オフサイト)導入			
		観光農園の果樹剪定枝を用いたバイオ炭による炭素貯留、チップの熱利用		
			観光農園・道の駅等にEV・急速充電器の導入	

15

11



環境負荷を低減した農業の普及・推進をする取り組み



⑥施策間連携(脱炭素先行地域の取組)

みどりの食料システム戦略
【農林水産省】

みどりの食料システム戦略とは	関連予算	みどりの食料システム法
あふの環2030プロジェクト	温室効果ガス削減「見える化」	J-クレジット制度

持続可能な食料システムの構築に向け、「みどりの食料システム戦略」を策定し、中長期的な観点から、調達・生産・加工・流通・消費の各段階の取組とカーボンニュートラル等の環境負荷軽減のイノベーションを推進

目的は同じ

【環境省】
脱炭素地域づくり支援サイト

☐ 農水省の「みどりの食料システム戦略」の目的と、環境省の「脱炭素地域づくり」と目的は同じ。「カーボンニュートラル」である。

<補助(交付)事業の目的>

・【農水省】農業や化学肥料の使用量を抑えること、または、使わないこと

→農業資材等の脱炭素化

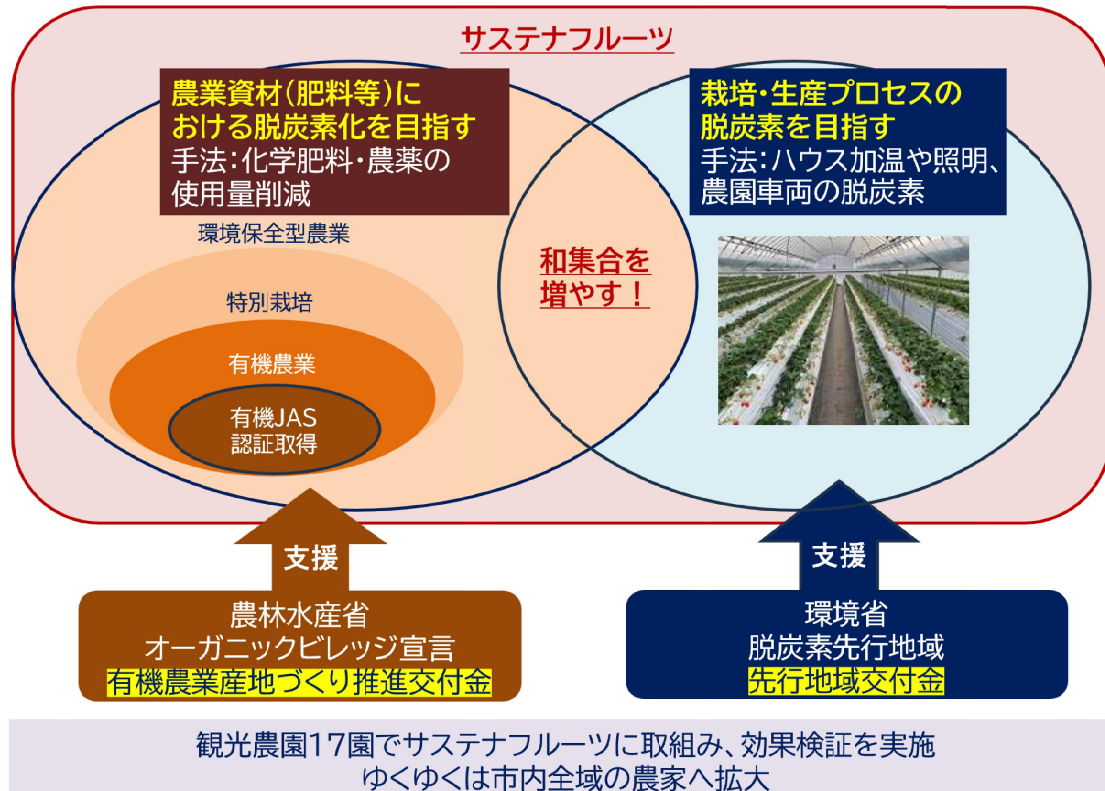
・【環境省】化石燃料由来のエネルギー消費を抑えること、再エネに切替ること

→プロセス等の脱炭素化

☐ うきは市において、両事業に並行して取り組むことは、「脱炭素社会づくり」に効率的・効果的である。

第4回脱炭素先行地域選定の過程において、「**施策間連携モデル**」として評価いただいた。

⑥施策間連携(脱炭素先行地域の取組)



【経緯】

- ・福岡県は全国2位の小麦の産地。
- ・九州の三大麺どころ『神崎』、『島原』、『うきは』
- ・日頃、利用しているのは外国産小麦。
- ・せつかくなら、うきはの小麦を活用しPRしたい。

2021年より有志でうきは小麦活性化プロジェクトを立ち上げ、**現在4年目**に突入

【取り組み内容】

- ・高校生、企業、福祉事業所と連携し、麦の播種から収穫までを体験型とし交流を実施
- ・新商品開発
- ・浮羽真館高校の生徒による調理実習
- ・体験イベントの実施 (麺打ち体験)

うきは産小麦を活用

【今後の展望】



ご清聴ありがとうございました。